

授業のヒント

19～21号では会話の練習の方法を紹介しましたが、これからは授業の中でいろいろな練習をどのように組み合わせるかを紹介します。今回は、初めて会った人と、お互いを知るために日常生活について話したり聞いたりできるようになることを目的とした授業の進め方を取り上げます。

なまえ わたしの生活

目的・教えること
日常生活について聞いたり、話したり、読んだり、書いたりできるようになる。
学習者のタイプ
初級
クラスのタイプ
8人
準備するもの
カード、シート、絵、写真など

この「わたしの生活」では、次のようなことばや文型を練習します。

- Aレベル (初級初期)
- 日常生活の動詞の「ます形」
 - 日常生活の名詞 「ごはん」「しごと」など
 - 動詞の「て形」
 - 「～てから、～」の形
 - 「～。それから～」
 - 「よく」「ときどき」「ぜんぜん」など
 - 「～時に」
 - 「～(場所)で」

- Bレベル (初級後期)
- 「～たり、～」の形
 - 「～ながら、～」の形
 - 「～前に、～」
 - 「～後で、～」

初級の初めごろの段階ではAレベルの語彙や文型を、初級でも少し進んだ段階ではさらにBレベルを加えるなど、学習者のレベルに合わせて教える語彙や練習する文型を選んでください。

教室で

(1)ウォームアップ(クラスの雰囲気作り) (4人ぐらいのグループで)

- 例1のようなカードを裏返しにして置き、一人ずつそのカードを取ってその言葉を使って話します。例えば、「あさ」を取って、「朝、ニュースを見ます。」など何でもいいです。
- 一人ずつカードを取って、他の人とカードのことは関係のある質問をしたり、答えたりする練習をします。

例1

あさ	がっこう	ばん	テレビ
しごと	べんきょう	うち	ひるごはん

(2)語彙の定着のための練習 (4人ぐらいのグループで)

例2のようなカード (10～20枚くらい) を準備して、絵と文を結びつける練習をします。カードを全部表にしてグループの人に見えるようにして置き、一人ずつ絵に合った文を言い、他の人はその絵をできるだけ早く見つけて取ります。

(3)正確に言う練習 (グループで、またはクラスで)

(2)で使ったカードを2枚以上取って、文をつなぐ練習をします。Aレベルのcdeや、Bレベルのabcdのつなぎかたの練習です。

例) 音楽を聞きながら、勉強します。

うちに帰ってから、ごはんを食べます。

例2



△カードを作るのが大変なときは、市販の絵教材を使ってもいいでしょう。たとえば、『初級レベル語学教育用



新絵教材』(スリーエーネットワーク)や『絵入り日本語作文』(専門教育出版)の10ページにあるような絵をコピーして使うこともできます。

△動詞の「て形」が作れない学習者がいたら、18号の「授業のヒント」で取り上げたゲームなどをして、正確な形が作れるようにします。

(4)話す練習①②4人ぐらいのグループで、③クラスで)

①各グループに「おすもうさん」「教師」「画家」「小学生」「スチュワーデス」など、例3のようないろいろな職業の人の絵カードを配ります。

②グループで、一人一枚のカード(二人一枚でもよい)を取って、それぞれの絵の人の一日について話します。他の人は、絵カードを見ながらどの人の一日か当てます。また、だれの日がおもしろいか選びます。

例3



③グループの中で一番おもしろかったものを選び、別のグループの人に聞かせ、別のグループの人が職業を当てます。

●全体の注意点

△教師はそれぞれの練習の目的に合わせて、授業を進めてください。たとえば、自由な雰囲気です話しているとき、文法のチェックをきびしくしない、など。

△一つの練習の中にたくさんの目的を入れないようにしましょう。

△学習者のレベルによって目標を決めましょう。

△グループで作業させている間は、教師はグループの様子を見てまわり、学習者が言えるかどうかを確認したり、必要なことばを教えたりします。また、自由に話せるような雰囲気を作ることが大切です。

応用

△(4)の練習の中で日本的な職業の人を取り入れると、日本事情の勉強になります。また、日本人の主婦、サラリーマン、小学生などの一日を描いたビデオを見て、どんな一日かを話す練習をすると、これも、日本事情になります。

*ビデオは、国際交流基金の日本人のライフスタイルシリーズの『当今主婦生活事情』『大学生諸君』『サラリーマン一家の日曜日』や、日本テレビ文化事業団の『海外子女のための日本語学習ビデオ教材・生活編』の『一日の学校生活』などが使えます。

☆今回は、藤長かおる日本語国際センター専任講師にアドバイスをもらいました。藤長講師はオーストラリアのクイーンズランド州教育省でアドバイザーとして1994年10月まで仕事をしていました。オーストラリアの小学校、中学校ではこのような形で授業が行われているそうです。

授業の準備をするとき、学習者の様子を想像しながら、教室活動のアイデアをあれこれ考えるのは楽しいですね。でも、授業全体の構成をよく考えないと、効果が上がりません。いろいろな教室活動をどう組み合わせるか、アイデアがあったら教えてください。

このコーナーの担当：笠原ゆう子 木山登茂子 (日本語国際センター専任講師)

